

定期作況報告

平成26年11月
(11月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月:平均気温は上旬・中旬がともに平年よりやや低く、下旬は極めて高かった。月平均気温は4.4℃で平年よりやや高かった(+0.7℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬・下旬はともに観測されず、月合計は49.0mmで平年並であった。日照時間は上旬が平年並で、中旬はやや多く、下旬は多く、月合計は232.2時間で平年よりやや多かった。

5月:平均気温は上旬・中旬がともに平年より高く、下旬はやや高かった。月平均気温は11.2℃で平年よりやや高かった(+1.5℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は極めて多く、下旬は少なく、月合計は58.0mmで平年並であった。日照時間は上旬・中旬がともに平年並で、下旬はやや多く、月合計は171.0時間で平年並であった。

6月:平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬はやや低く、下旬はやや高かった。月平均気温は17.3℃で平年より高かった(+1.7℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬はやや多く、下旬はやや少なく、月合計は54.5mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬は少なく、下旬は多く、月合計は173.3時間で平年並であった。

7月:平均気温は上旬が平年よりやや低く、中旬は高く、下旬はやや高かった。月平均気温は19.3℃で平年よりやや高かった(+0.7℃)。降水量は上旬・中旬がともに平年より少なく、下旬はやや多く、月合計は62.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年並で、中旬は多く、下旬はやや多く、月合計は188.4時間で平年並であった。

8月:平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬・下旬はともにやや低かった。月平均気温は19.7℃で平年よりやや低かった(-0.6℃)。降水量は上旬が平年よりやや多く、中旬・下旬はともに多く、月合計は201.0mmで平年より多かった。日照時間は上旬・中旬がともに平年よりやや少なく、下旬はやや多く、月合計は140.2時間で平年並であった。

9月:平均気温は上旬が平年よりやや低く、中旬は極めて低く、下旬は平年並であった。月平均気温は14.6℃で平年よりやや低かった(-1.5℃)。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬・下旬はともに少なく、月合計は54.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年並で、中旬はやや少なく、下旬は平年並で、月合計は161.5時間で平年並であった。

10月:平均気温は上旬が平年より低く、中旬はやや低く、下旬は平年並であった。月平均気温は7.6℃で平年よりやや低かった(-1.3℃)。降水量は上旬には観測されず、中旬は多く、下旬は少なく、月合計は45.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬・中旬がともに平年並で、下旬はやや多く、月合計は166.8時間で平年並であった。

11月:平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬は平年並であった。中旬までの平均気温は3.8℃で平年並であった(+0.3℃)。降水量は上旬・中旬ともに平年より少なく、中旬までの合計は13.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬は多く、中旬までの合計は105.7時間で平年よりやや多かった。

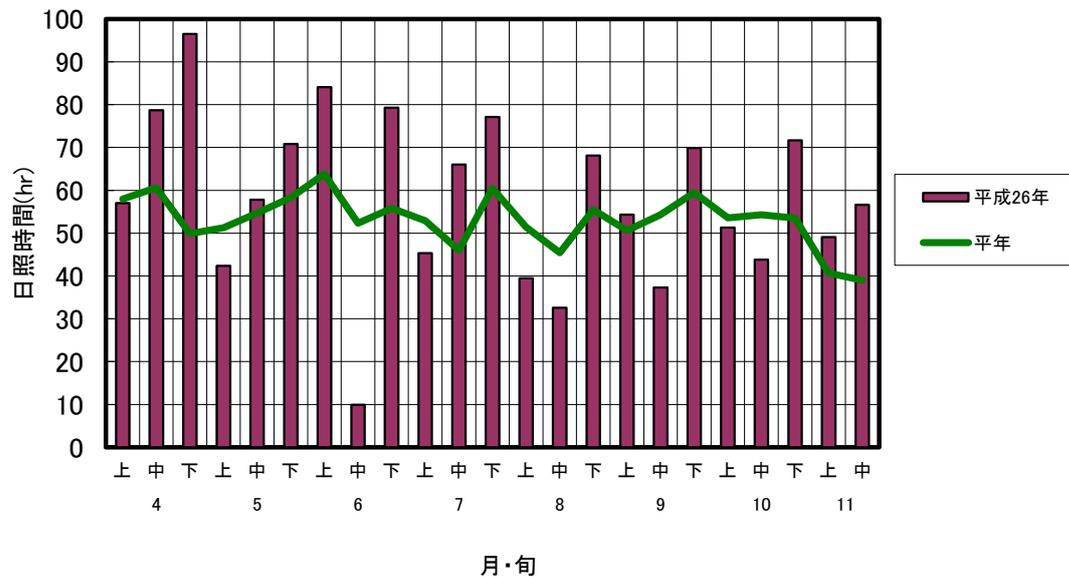
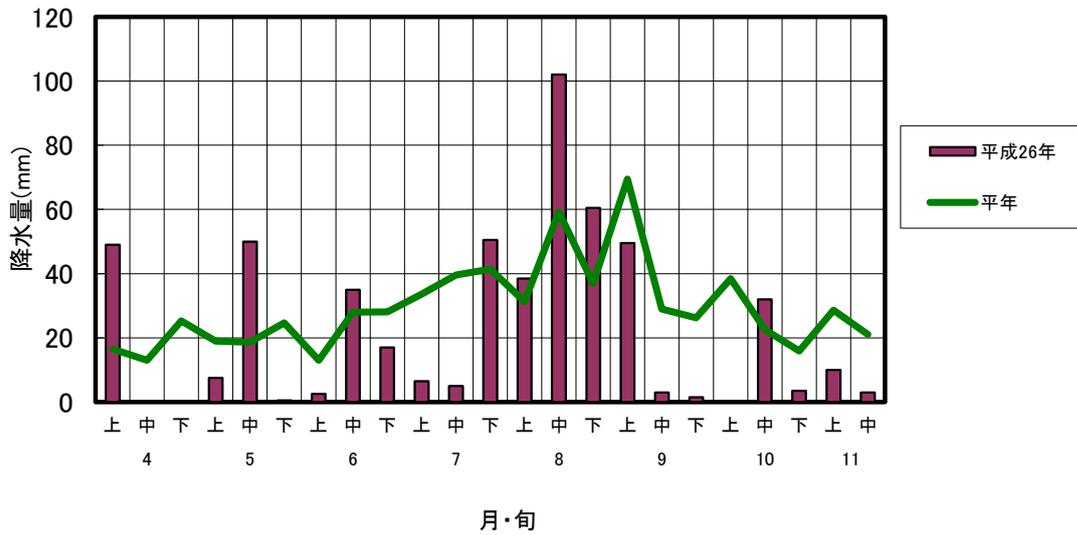
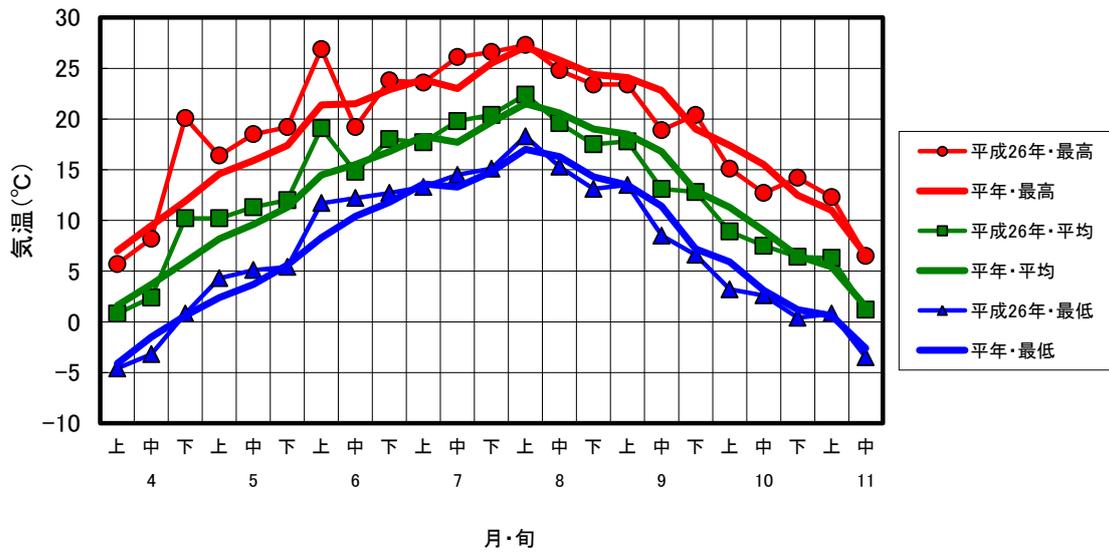
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温:5月は平年よりやや高く、6月は高く、7月はやや高く、8月・9月はやや低かった。この期間の日平均気温の積算値は2513℃で平年並であった(平年差+55℃、平年比102%)。

降水量:5月は平年並で、6月はやや少なく、7月は少なく、8月は多く、9月は少なかった。この期間の降水量の積算は430mmで平年よりやや少なかった(平年差-68mm、平年比86%)。

日照時間:5月～9月のいずれの月も平年並であった。この期間の日照時間の積算は834時間で平年並であった(平年差+22時間、平年比103%)。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
4	上	0.8	1.6	△0.8	5.7	7.0	△1.3	-4.6	-4.1	△0.5	49.0	16.5	32.5	57.0	58.0	△1.0
	中	2.4	3.7	△1.3	8.2	9.5	△1.3	-3.2	-1.5	△1.7	0.0	13.0	△13.0	78.7	60.6	18.1
	下	10.2	5.9	4.3	20.1	11.9	8.2	0.8	0.6	0.2	0.0	25.3	△25.3	96.5	49.9	46.6
5	上	10.2	8.2	2.0	16.4	14.6	1.8	4.3	2.4	1.9	7.5	19.0	△11.5	42.4	51.3	△8.9
	中	11.3	9.6	1.7	18.5	15.9	2.6	5.1	3.7	1.4	50.0	18.6	31.4	57.8	54.7	3.1
	下	12.0	11.3	0.7	19.2	17.4	1.8	5.4	5.6	△0.2	0.5	24.7	△24.2	70.8	58.3	12.5
6	上	19.1	14.5	4.6	26.9	21.4	5.5	11.7	8.3	3.4	2.5	13.0	△10.5	84.1	63.8	20.3
	中	14.8	15.5	△0.7	19.2	21.5	△2.3	12.2	10.4	1.8	35.0	28.0	7.0	9.9	52.3	△42.4
	下	18.0	16.8	1.2	23.8	22.9	0.9	12.7	11.8	0.9	17.0	28.1	△11.1	79.3	55.8	23.5
7	上	17.7	18.3	△0.6	23.6	23.9	△0.3	13.3	13.6	△0.3	6.5	33.6	△27.1	45.3	52.9	△7.6
	中	19.8	17.7	2.1	26.1	23.0	3.1	14.5	13.3	1.2	5.0	39.6	△34.6	66.0	46.0	20.0
	下	20.4	19.7	0.7	26.6	25.5	1.1	15.1	14.8	0.3	50.5	41.4	9.1	77.1	60.5	16.6
8	上	22.4	21.5	0.9	27.3	27.1	0.2	18.3	17.0	1.3	38.5	31.2	7.3	39.5	51.4	△11.9
	中	19.6	20.6	△1.0	24.8	25.8	△1.0	15.3	16.3	△1.0	102.0	59.2	42.8	32.6	45.4	△12.8
	下	17.5	19.0	△1.5	23.4	24.4	△1.0	13.1	14.3	△1.2	60.5	36.9	23.6	68.1	55.5	12.6
9	上	17.8	18.5	△0.7	23.4	24.1	△0.7	13.5	13.5	0.0	49.5	69.5	△20.0	54.3	50.6	3.7
	中	13.1	16.8	△3.7	18.9	22.8	△3.9	8.5	11.4	△2.9	3.0	29.0	△26.0	37.3	54.3	△17.0
	下	12.8	12.9	△0.1	20.4	19.0	1.4	6.6	7.2	△0.6	1.5	26.2	△24.7	69.9	59.5	10.4
10	上	8.9	11.3	△2.4	15.1	17.4	△2.3	3.2	5.9	△2.7	0.0	38.4	△38.4	51.3	53.6	△2.3
	中	7.5	9.0	△1.5	12.7	15.5	△2.8	2.6	3.1	△0.5	32.0	22.6	9.4	43.8	54.3	△10.5
	下	6.4	6.5	△0.1	14.2	12.5	1.7	0.4	1.2	△0.8	3.5	15.9	△12.4	71.7	53.5	18.2
11	上	6.3	5.4	0.9	12.3	11.0	1.3	0.8	0.6	0.2	10.0	28.6	△18.6	49.1	40.7	8.4
	中	1.2	1.5	△0.3	6.5	6.6	△0.1	-3.5	-2.6	△0.9	3.0	21.1	△18.1	56.6	39.0	17.6

注) 観測値は気象庁ホームページの気象統計情報で公開している置戸町境野のアメダスによる。
 観測統計の解説は<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/kaisetu/index.html>を参照。
 本年の値は確定前の速報値を含む。平年値は前10か年の平均値である。

4) 季節表

項目 年次	前年 根雪始 月日	融雪 期 月日	根雪 期間 日数	耕鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算(5~9月)		
										平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
本年	H25年 11.28	4.21	145	4.28	4.18	4.20	10.16	178	11.17	2513	430	834
平年	12.6	4.11	127	4.28	5.7	5.11	10.11	152	10.30	2458	498	812
比較	△8	10	18	0	△19	△21	5	26	18	55	△68	22

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。
 平年値は前10か年データの平均値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（平成25年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は平年より1日早い9月15日に行った。播種後の気温は平年並からやや高く推移したため、出芽期は平年より3日早い9月22日であった。越冬前（11月20日）の草丈は平年並で、茎数は平年より少なかったが、越冬に必要な生育量は確保できていた。根雪始は平年より8日早い11月28日、融雪期は平年より10日遅い4月21日で、根雪期間は平年より18日間長かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期は観測点より9日程度早い4月12日で、雪腐病の発生は平年並で少なかった。

融雪期以降、気温は平年より高く経過したため、生育は進み、出穂期は平年より3日早い6月7日であった。6月下旬～7月中旬の気温は平年よりやや高く、日照時間はやや長かったため、登熟は進み、成熟期は平年より5日早い7月21日であった。稈長は平年より短く、穂長は平年並で、穂数は平年より少なかった。また、倒伏は未発生であった。登熟期間が平年より2日短かったが、6月下旬以降の日照時間が平年並から多かったため、子実の充実は良好であった。リットル重、千粒重ともに平年を上回り、子実重は平年比100%であった。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (平成25年月.日)	9.15	9.16	△1
出芽期 (平成25年月.日)	9.22	9.25	△3
出穂期 (平成26年月.日)	6.7	6.10	△3
成熟期 (平成26年月.日)	7.21	7.26	△5
草丈(cm) (平成25年11月20日)	19.3	18.3	1.0
草丈(cm) (平成26年5月20日)	37.3	38.4	△1.1
草丈(cm) (平成26年6月20日)	89.2	91.4	△2.2
茎数(本/m ²) (平成25年11月20日)	1107	1465	△358
茎数(本/m ²) (平成26年5月20日)	1369	1538	△169
茎数(本/m ²) (平成26年6月20日)	650	776	△126
稈長(cm) (成熟期)	79	87	△8
穂長(cm) (成熟期)	8.5	8.8	△0.3
穂数(本/m ²) (成熟期)	631	736	△105
子実重(kg/10a)	686	686	0
同上平年比(%)	100	100	0
リットル重(g)	801	790	11
千粒重(g)	39.5	36.1	3.4
品質(検査等級)	1	2	-

注) 「きたほなみ」の平年値は前7カ年中、平成19年（最凶）、25年（最豊）を除く5カ年の平均値。

2) 秋まき小麦（平成26年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は平年並の9月16日に行った。出芽期は平年より1日早い9月24日で、出芽は良好であった。10月上・中旬の平均気温が低かったため、越冬前の草丈と茎数は平年を下回っているが、越冬に必要な生育量は確保できている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期（平成26年月.日）	9.16	9.16	0
出芽期（平成26年月.日）	9.24	9.25	△1
草丈(cm)（平成26年11月20日）	15.3	19.0	△3.7
茎数(本/㎡)（平成26年11月20日）	1057	1342	△285

注) 「きたほなみ」の平年値は前7カ年中、平成22年（最凶）、25年（最豊）を除く5カ年の平均値。

3) 春まき小麦

作 況 : 良

事由：融雪期は平年より10日遅い4月21日であったが、調査圃場は融雪剤散布により8日程度融雪が早まった。播種期は平年より2日早い4月17日であった。播種後の気温が高く推移したことから、出芽期は平年より8日早かった。出芽後の5月上旬から6月上旬は、気温は高く推移し、降水量は少なかった。このため生育は進み、出穂期は平年より9～10日早かった。出穂期以降成熟期までは、気温は平年よりやや高く推移し、降水量は少なかった。成熟期は平年より7～8日早かったが、登熟期間は平年より2日長かった。稈長は平年より長く、穂長は平年並で、穂数は平年よりやや少なかった。また、倒伏はみられなかった。登熟期間中の日照時間が平年並から多かったことから、子実の充実は良好で、リットル重、千粒重とも平年を上回り、子実重は平年比119～120%と多収であった。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.17	4.19	△ 2	4.17	4.19	△ 2	
出芽期 (月.日)	4.27	5.5	△ 8	4.28	5.6	△ 8	
出穂期 (月.日)	6.16	6.25	△ 9	6.14	6.24	△ 10	
成熟期 (月.日)	7.31	8.7	△ 7	8.1	8.9	△ 8	
草丈 (cm)	(5月20日)	22.0	13.4	8.6	22.1	13.5	8.6
	(6月20日)	79.9	65.4	14.5	77.1	65.4	11.7
茎数 (本/m ²)	(5月20日)	604	339	265	568	339	228
	(6月20日)	776	845	△ 69	723	845	△ 122
稈長 (cm) (7月20日)	101	92	9	95	92	3	
穂長 (cm) (7月20日)	8.1	8.3	△ 0.2	7.6	7.5	0.1	
穂数 (本/m ²) (7月20日)	515	552	△ 37	545	569	△ 24	
子実重 (kg/10a)	548	456	92	539	454	85	
同上平年比 (%)	120	100	20	119	100	19	
リットル重 (g)	834	796	38	832	803	29	
千粒重 (g)	40.5	39.4	1.1	44.5	41.9	2.6	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 平年並

事 由 : 播種期は平年より2日早い5月15日、出芽期は平年より1日遅い6月1日であった。出芽後は6月上・下旬および7月中・下旬の気温が平年より高く推移し、日照時間も多かったため、7月にかけて草丈と葉数は平年を上回って推移し、開花期および抽糸期はいずれも平年より8日早かった。しかし、その後8月中旬から収穫期にかけて、気温が全般に低く推移したため、8月20日の草丈と葉数、9月20日の稈長は、いずれも平年並となった。本年の収穫期は平年より3日早い9月22日であった。収穫時の子実の熟度は糊熟後期～黄熟初期と平年よりやや遅れたが、総体の乾物率は平年より高かった。乾物茎葉重は平年並で、乾物雌穂重は平年よりやや多く、乾物総重ならびに推定TDN収量は、それぞれ平年対比102%、104%といずれも平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.15	5.17	△2	
出芽期 (月.日)	6.1	5.31	1	
開花期 (月.日)	7.28	8.5	△8	
抽糸期 (月.日)	7.27	8.4	△8	
収穫期 (月.日)	9.22	9.25	△3	
収穫時の熟度	糊熟後期～ 黄熟初期	黄熟初期		
草丈 (cm)	(6月20日)	45.1	28.2	16.9
	(7月20日)	221.3	166.5	54.8
	(8月20日)	306.8	315.8	△9.0
稈長 (cm)	(9月20日)	272	282	△10
葉数 (枚)	(6月20日)	5.7	4.5	1.2
	(7月20日)	13.0	12.2	0.8
	(8月20日)	15.0	14.6	0.4
生総重 (kg/10a)	6439	6802	△363	
乾物茎葉重 (kg/10a)	950	991	△41	
乾物雌穂重 (kg/10a)	1096	1008	88	
乾物総重 (kg/10a)	2046	1998	48	
同上平年比 (%)	102	100	2	
推定TDN収量 (kg/10a)	1484	1433	51	
同上平年比 (%)	104	100	4	
総体の乾物率 (%)	31.8	29.4	2.4	
乾雌穂重割合 (%)	53.6	50.3	3.3	
有効雌穂割合 (%)	98.3	100.0	△1.7	

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

5) 大豆

作 況：良

事 由： 平年より1日早い5月23日に播種を行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より4日早い6月3日であった。6月中旬と7月上旬を除き、気温は高めに推移したため生育は進み、生育初期の主茎長および本葉数は平年を大きく上回り、開花始は平年より3日早い7月16日であった。8月以降の気温はほぼ平年並で、主茎長は平年より長かったが、倒伏の発生は見られなかった。成熟期は平年より4日早い9月22日であった。一莢内粒数は平年並で百粒重は平年をやや下回ったものの、着莢数は平年を上回り、子実重は平年比109%であった。品質は平年より優った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	ユキホマレ			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.23	5.24	△ 1	
出芽期 (月.日)	6.3	6.7	△ 4	
開花始 (月.日)	7.16	7.19	△ 3	
成熟期 (月.日)	9.22	9.26	△ 4	
主茎長 (cm)	(6月20日)	14.6	10.8	3.8
	(7月20日)	74.3	50.4	23.9
	(8月20日)	80.0	67.5	12.5
	(9月20日)	83.7	67.2	16.5
	(成熟期)	83.7	67.2	16.5
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.9	1.0	0.9
	(7月20日)	9.2	6.9	2.3
主茎節数	(8月20日)	11.5	11.1	0.4
	(9月20日)	11.5	11.1	0.4
	(成熟期)	11.5	11.1	0.4
分枝数 (本/株)	(7月20日)	6.8	3.9	2.9
	(8月20日)	6.7	5.5	1.2
	(9月20日)	6.9	5.1	1.8
	(成熟期)	6.9	5.1	1.8
着莢数 (個/株)	(8月20日)	89.2	72.0	17.2
	(9月20日)	78.5	66.9	11.6
	(成熟期)	78.5	66.9	11.6
一莢内粒数	1.81	1.80	0.01	
子実重 (kg/10a)	409	374	35	
同上平年比 (%)	109	100	9	
百粒重 (g)	36.1	37.6	△ 1.5	
屑粒率 (%)	0.7	1.9	△ 1.2	
品質 (検査等級)	1	2中	—	

注1) 平年値は、前7か年中21年(最凶)、平成23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

6) 小豆

作況：平年並

事由：平年より1日早い5月23日に播種を行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より4～5日早い6月5～6日であった。6月中旬と7月上旬を除き、気温は高めに推移したため生育は進み、生育初期の主茎長および本葉数は平年を大きく上回り、開花始は「サホロシヨウズ」で平年より8日早い7月16日、「エリモシヨウズ」で6日早い7月20日であった。8月以降の気温はほぼ平年並で、主茎長は平年を大きく上回ったものの、倒伏が発生したことから、着莢は抑制された。成熟期は平年より「サホロシヨウズ」で7日早い9月8日、「エリモシヨウズ」で5日早い9月15日であった。両品種とも倒伏により着莢数は平年を下回ったものの、一莢内粒数および百粒重がほぼ平年並で、子実重は「サホロシヨウズ」が平年比103%、「エリモシヨウズ」が同96%であった。品質はほぼ平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.23	5.24	△ 1	5.23	5.24	△ 1	
出芽期 (月.日)	6.5	6.10	△ 5	6.6	6.10	△ 4	
開花始 (月.日)	7.16	7.24	△ 8	7.20	7.26	△ 6	
成熟期 (月.日)	9.8	9.15	△ 7	9.15	9.20	△ 5	
主茎長 (cm)	(6月20日)	5.3	3.6	1.7	5.4	3.8	1.6
	(7月20日)	39.5	19.7	19.8	32.6	18.7	13.9
	(8月20日)	89.1	71.1	18.0	85.3	60.0	25.3
	(9月20日)	96.4	83.0	13.4	91.8	66.4	25.4
	(成熟期)	96.4	83.0	13.4	91.8	66.4	25.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.3	0.6	0.7	1.2	0.5	0.7
	(7月20日)	8.5	6.4	2.1	8.6	6.4	2.2
主茎節数	(8月20日)	13.8	13.2	0.6	14.4	13.7	0.7
	(9月20日)	14.3	13.9	0.4	14.6	14.2	0.4
	(成熟期)	14.3	13.9	0.4	14.6	14.2	0.4
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.8	2.5	2.3	5.0	2.4	2.6
	(8月20日)	4.6	4.9	△ 0.3	5.1	4.7	0.4
	(9月20日)	4.1	4.4	△ 0.3	4.8	4.0	0.8
	(成熟期)	4.1	4.4	△ 0.3	4.8	4.0	0.8
着莢数 (個/株)	(8月20日)	59.7	59.9	△ 0.2	60.7	64.3	△ 3.6
	(9月20日)	56.1	62.8	△ 6.7	52.9	62.7	△ 9.8
	(成熟期)	56.1	63.4	△ 7.3	52.9	63.3	△ 10.4
一莢内粒数	5.63	5.81	△ 0.18	6.36	6.25	0.11	
子実重 (kg/10a)	418	406	12	415	434	△ 19	
同上平年比 (%)	103	100	3	96	100	△ 4	
百粒重 (g)	15.1	14.8	0.3	14.1	14.0	0.1	
屑粒率 (%)	1.5	2.1	△ 0.6	1.8	1.7	0.1	
品質 (検査等級)	4上	3下	—	3下	3下	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

7) 菜豆

作 況：平年並

事 由：平年と同日の5月23日に播種を行った。播種後の気温が高かったため、出芽期は平年より3日早い6月5日であった。6月中旬と7月上旬を除き、気温は高めに推移したため生育は進み、生育初期の草丈は平年を大きく上回り、開花始は平年より1日早い7月7日であった。8月以降の気温はほぼ平年並で、草丈は平年を大きく上回ったものの、倒伏が発生したことから、着莢はやや抑制された。成熟期は平年より5日早い8月28日であった。百粒重は平年をやや下回ったものの、着莢数および一莢内粒数がほぼ平年並で、子実重は平年比104%であった。なお、成熟期前の降雨により屑粒率が平年より高く、品質は平年より劣った。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.23	5.23	0	
出芽期 (月.日)	6.5	6.8	△ 3	
開花始 (月.日)	7.7	7.8	△ 1	
成熟期 (月.日)	8.28	9.2	△ 5	
草丈 (cm)	(6月20日)	13.1	9.3	3.8
	(7月20日)	61.6	42.9	18.7
	(8月20日)	60.6	46.9	13.7
	(9月20日)	60.6	47.9	12.7
	(成熟期)	60.6	47.9	12.7
本葉数 (枚)	(6月20日)	2.1	0.9	1.2
	(7月20日)	3.5	3.1	0.4
主茎節数	(8月20日)	5.7	5.1	0.6
	(9月20日)	5.7	5.1	0.6
	(成熟期)	5.7	5.1	0.6
分枝数 (本/株)	(7月20日)	7.5	4.4	3.1
	(8月20日)	6.3	5.0	1.3
	(9月20日)	6.3	4.2	2.1
	(成熟期)	6.3	4.2	2.1
着莢数 (個/株)	(8月20日)	21.7	21.1	0.6
	(9月20日)	21.7	19.4	2.3
	(成熟期)	21.7	19.4	2.3
一莢内粒数	3.01	2.97	0.04	
子実重 (kg/10a)	356	343	13	
同上平年比 (%)	104	100	4	
百粒重 (g)	69.4	73.6	△ 4.2	
屑粒率 (%)	18.7	3.2	15.5	
品質 (検査等級)	4下	2下	—	

注1) 平年値は、前7か年中平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

8) ばれいしょ

作 況：やや良

事由：植え付けは平年より5日早い5月9日に行った。植え付けの早さを反映し、萌芽期は「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年より5日早かった。萌芽後の気温が平年より高く推移したことから、開花始は平年より「男爵薯」で4日、「コナフブキ」で5日早かった。枯ちよう期は「男爵薯」で平年並であったが、「コナフブキ」では9月以降の気温が低めに経過したことから、平年より3日遅かった。

「男爵薯」では、上いも数は平年を上回ったが、上いも平均重は平年を下回った。でん粉価は平年より高かったが、上いも重は平年比97%とほぼ平年並であった。「コナフブキ」では、上いも数は平年並で、上いも平均重は平年を上回った。上いも重、でん粉価ともに平年を上回り、でん粉重は平年比118%と平年をかなり上回った。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目		男爵薯			コナフブキ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月.日)	5. 9	5.14	△ 5	5. 9	5.15	△ 6
萌芽期	(月.日)	5.31	6. 5	△ 5	6. 1	6. 6	△ 5
開花始	(月.日)	6.27	7. 1	△ 4	6.27	7. 2	△ 5
枯ちよう期	(月.日)	9. 1	9. 2	△ 1	10. 7	10. 4	3
茎長(cm)	(6月20日)	26.2	16.1	10.1	27.3	17.3	10.0
	(7月20日)	47	49	△ 2	60	70	△ 10
	(8月20日)	46	52	△ 6	64	70	△ 6
茎数(本/株)	(6月20日)	4.1	3.7	0.4	3.7	3.4	0.3
	(7月20日)	4.5	3.6	0.9	3.7	3.4	0.3
	(8月20日)	3.2	3.7	△0.5	2.9	3.4	△0.5
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4146	4353	△207	4080	3338	742
	(9月20日)	—	—	—	5344	4704	640
でん粉価(%)	(8月20日)	16.0	15.2	0.8	23.0	20.3	2.7
	(9月20日)	—	—	—	23.2	21.4	1.8
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	—	—	—	1187	959	228
上いも数(個/株)		11.9	10.1	1.8	10.2	10.5	△0.2
上いも平均重(g)		83	100	△ 17	118	105	13
上いも重(kg/10a)		4370	4512	△142	5326	4864	462
同上平年比(%)		97	100	△ 3	109	100	9
でん粉価(%)		15.8	14.8	1.0	23.4	21.6	1.8
でん粉重(kg/10a)		—	—	—	1188	1003	185
同上平年比(%)		—	—	—	118	100	18

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：良

事 由：播種は平年より3日早い3月19日に行った。育苗中の生育は順調であった。

移植は平年より5日早い5月2日に行った。移植期前後に降雨があったため活着は順調であった。その後、気温が高めに推移し日照時間も概して長めであったため生育が進み、6月には草丈、生葉数、茎葉数、根重全てで平年を上回った。6月下旬から7月中旬にかけて乾燥傾向であったが、土壌水分が十分に保持されていたため影響はほとんどなく、7月の生育も良好であった。以降、気温および日照時間はほぼ平年並に推移し、降水量が十分であったため、生育は順調に進んだ。9月中旬からは気温が平年より低めに推移したため、根中糖分が平年より上昇した。

収穫は平年並の10月20日に行った。根重は2品種平均で平年対比107%、根中糖分は同110%、糖量は同119%であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.19	3.22	△3	3.19	3.22	△3	5.2	5.5	△3	
移植期 (月.日)	5.2	5.7	△5	5.2	5.7	△5	-	-	-	
出芽期 (月.日)	-	-	-	-	-	-	5.13	5.18	△5	
収穫期 (月.日)	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0	
草丈(cm)	(5月20日)	5.7	4.5	1.2	5.3	4.9	0.4	-	-	-
	(6月20日)	32.2	26.2	6.0	32.8	26.0	6.8	17.7	15.1	2.6
	(7月20日)	59.0	57.4	1.6	56.0	54.3	1.7	54.9	53.0	1.9
	(8月20日)	62.6	63.9	△1.3	57.8	59.6	△1.8	59.5	61.7	△2.2
	(9月20日)	64.1	64.5	△0.4	59.0	59.9	△0.9	61.9	61.6	0.3
生葉数(枚)	(5月20日)	6.2	4.2	2.0	5.5	3.9	1.6	-	-	-
	(6月20日)	13.8	11.8	2.0	12.8	11.2	1.6	8.3	7.2	1.1
	(7月20日)	23.6	21.8	1.8	23.0	20.8	2.2	17.9	16.6	1.3
	(8月20日)	27.7	26.2	1.5	27.3	25.6	1.7	22.9	21.3	1.6
	(9月20日)	33.2	30.3	2.9	30.7	29.9	0.8	22.8	21.4	1.4
茎葉重(g/個体)	(6月20日)	180	102	78	160	98	62	34	16	18
	(7月20日)	647	690	△43	629	661	△32	480	484	△4
	(8月20日)	898	876	22	889	906	△17	842	764	78
	(9月20日)	863	871	△8	877	932	△55	836	684	152
根重(g/個体)	(6月20日)	29	21	8	27	21	6	2	1	1
	(7月20日)	404	259	145	420	276	144	233	142	91
	(8月20日)	821	682	139	889	755	134	666	586	80
	(9月20日)	1108	1009	99	1134	1064	70	953	919	34
根周(cm)	(7月20日)	24.7	21.1	3.6	25.7	22.7	3.0	21.7	18.3	3.4
	(8月20日)	31.9	30.0	1.9	34.0	32.6	1.4	30.9	29.5	1.4
	(9月20日)	34.8	34.9	△0.1	37.8	37.2	0.6	34.1	34.1	0.0
根中糖分(%)	(9月20日)	15.62	13.88	1.74	16.51	14.19	2.32	16.12	13.83	2.29

表 その 2

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ (参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (収穫期)	5710	5669	41	5070	5853	△ 783	4630	4131	499
根重 (kg/10a) (収穫期)	8010	7273	737	7740	7418	322	7130	6645	485
同上平年比 (%)	110	100	10	104	100	4	107	100	7
根中糖分 (%)	18.05	16.65	1.40	19.09	17.08	2.01	18.87	16.67	2.20
同上平年比 (%)	108	100	8	112	100	12	113	100	13
糖量 (kg/10a)	1445	1208	237	1476	1264	212	1344	1105	239
同上平年比 (%)	120	100	20	117	100	17	122	100	22

注 1) 平年値は前 7 か年中、平成 21 年 (最豊)、22 年 (最凶) を除く 5 か年の平均。

注 2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前 4 か年の平均。

10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : やや不良

事 由 : 冬損程度は平年並であった。萌芽期は平年より2日遅い4月25日であった。

1 番草 ; 萌芽後の気温が平年より高く推移したため、出穂始は平年より3日早い6月12日、出穂期は平年より4日早い6月15日であった。5月下旬と6月上旬の干ばつ傾向が大きく影響し、草丈は平年よりやや低く、乾物収量は平年比88%と平年より少なかった。

2 番草 ; 6月下旬～7月中旬に降水量が平年より少なかったため、1番草収穫後の再生は平年より劣った。このため、収穫時の節間伸長程度が平年よりやや少なく、草丈は低かった。乾物収量は平年比91%と平年より少なかった。

3 番草 ; 草丈は平年よりやや高く、乾物収量は平年比117%と平年より多かった。

1～3番草の合計乾物収量は、平年比94%と平年よりやや少なかった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

表 その1

調査項目	ノサップ			
	本年	平年	比較	
萌芽期 (月.日)	4.25	4.23	2	
冬損程度	1.0	1.3	△0.3	
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始 (月.日)	6.12	6.15	△3	
出穂期 (月.日)	6.15	6.19	△4	
出穂程度 1番草	9.0	6.7	2.3	
節間伸長程度 2番草	2.0	2.9	△0.9	
刈取日(月.日)	1番草	6.19	6.22	△3
	2番草	8.8	8.11	△3
	3番草	10.2	10.5	△3
倒伏程度 1番草	1.0	3.0	△2.0	
病害罹病程度	1番草	1.0	1.8	△0.8
	2番草	2.0	3.8	△1.8
	3番草	3.3	3.7	△0.4
草丈(cm)	(5月18日)	37	32	5
	(6月5日)	70	69	1
	1番草	91	105	△14
	2番草再生時	29	39	△10
	2番草	52	59	△7
	3番草再生時	49	44	5
生草収量(kg/10a)	3番草	49	43	6
	1番草	2363	2776	△413
	2番草	949	837	112
	合計	3904	4199	△295
乾物率(%)	1番草	23.9	22.4	0.2
	2番草	18.0	23.1	△5.1
	3番草	32.5	28.9	3.6

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量(kg/10a)	1番草	533	604	△71
	同上平年比(%)	88	100	△12
	2番草	171	188	△17
	同上平年比(%)	91	100	△9
	3番草	192	164	28
	同上平年比(%)	117	100	17
	合計	896	957	△61
	同上平年比(%)	94	100	△6

注1) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、平成24年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

11) たまねぎ 作 況：やや不良

事 由：播種は、早生種「改良オホーツク1号」では平年より2日早い2月28日、晩生種「スーパー北もみじ」では平年より2日遅い3月12日に行った。育苗期間中の気温は4月中旬まで低めに推移し、苗の生育はやや緩慢であった。移植は平年と比較して、「改良オホーツク1号」では6日、「スーパー北もみじ」では3日早く行った。

5月下旬から6月上旬の気温は高めに推移し、6月中旬には適度な降雨もあったことから、6月20日における生育は、両品種とも概して平年を上回っていた。6月下旬以降、降水量は少なめに推移したものの生育は概ね順調で、球肥大期は平年と比較して、「改良オホーツク1号」では4日、「スーパー北もみじ」では9日早かった。7月20日における生育は、両品種ともに草丈、生葉数、葉鞘径は平年並で、球生重は平年を大きく上回っていた。7月中旬まで降水量が少なめに推移したため、7月下旬以降、「スーパー北もみじ」では紅色根腐病の症状が広く認められるようになった。倒伏期は平年と比較して、「改良オホーツク1号」では6日、「スーパー北もみじ」では7日早かった。

「改良オホーツク1号」では枯葉期が平年より6日早かったものの、平均一球重、総収量、規格内収量は概ね平年並であった。一方、「スーパー北もみじ」では倒伏期以降の枯葉が甚だしく、枯葉期は平年より11日早まり、球肥大はやや劣り、平均一球重、規格内収量は平年をやや下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	2.28	3.2	△2	3.12	3.10	2	
出芽期 (月.日)	3.16	3.15	1	3.25	3.22	3	
移植期 (月.日)	5.1	5.7	△6	5.9	5.12	△3	
球肥大期 (月.日)	7.3	7.7	△4	7.14	7.23	△9	
倒伏期 (月.日)	7.26	8.1	△6	8.2	8.9	△7	
根切日 (月.日)	8.6	8.17	△11	8.19	8.27	△8	
枯葉期 (月.日)	8.16	8.22	△6	8.22	9.2	△11	
収穫期 (月.日)	8.28	8.31	△3	9.2	9.11	△9	
草丈 (cm)	移植時	19.4	24.6	△5.2	20.4	23.3	△2.9
	(6月20日)	51.5	43.5	7.6	46.0	29.2	16.8
	(7月20日)	76.8	77.8	△1.0	82.3	81.4	0.9
生葉数 (枚)	移植時	2.7	3.2	△0.5	3.1	3.3	△0.2
	(6月20日)	6.6	6.1	0.5	6.9	5.4	1.5
	(7月20日)	8.8	9.1	△0.3	9.5	10.1	△0.6
葉鞘径 (mm)	移植時	3.3	3.9	△0.6	4.1	3.9	0.2
	(6月20日)	13.2	10.8	2.4	11.6	8.1	3.5
	(7月20日)	20.3	20.6	△0.3	20.6	21.0	△0.4
葉身生重 (g)	(7月20日)	109.6	130.0	△20.4	142.0	135.2	6.8
球生重 (g)	(7月20日)	137.2	117.6	19.6	122.6	53.7	68.9
	(8月20日)	246.6	251.7	△5.1	213.6	226.5	△12.9
総収量 (kg/10a)		7039	7073	△34	6054	6402	△348
規格内収量 (kg/10a)		6006	6270	△264	5279	5802	△523
同上平年比 (%)		96	100	△4	91	100	△9
規格内率 (%)		85	89	△4	87	91	△4
平均一球重 (g)		230	243	△13	202	221	△19

注) 平年値は前8か年中、平成19年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、25年(最凶)を除く5か年の平均。